

## 関東同窓会新年会に参加

上原 昇（2組）

午後から雪の天気予報が出ていた寒い1月20日（土）、恒例の関東同窓会新年会が日本教育会館（千代田区一ツ橋）で開催されました。

新年会の前に、昨年6月に船出した新執行部体制での2回目の幹事会が開かれて、23年度の活動について報告と議論が交わされました。

65期の出席者は幹事会と新年会を合わせ、期代表幹事の丸山暢久君（4組）、宮原豊君（9）と筆者の3名でした。新年会には最年長の53期（88歳）から115期（26歳）まで幅広い世代から約100名の同窓生が参集しました。

新年会ではアトラクションで115期の小林公哉さんのビブラフォン演奏会を聴きました。我々の孫世代になる小林さんは真田町傍陽の出身で、高校時代は吹奏楽班に所属、東京藝大に入学、現在は同大学修士課程に在学中の若手ミュージシャンです。

ビブラフォンの演奏会を聴くのは初めてですが、ビブラフォンは鍵盤打楽器で金属音板にファンの風を当て、音が振動（ビブラート）するのが特徴とのこと。

小林さんの音楽仲間の山口静夏さんがピアノ伴奏を担当しました。

演奏曲は「ティコ・ティコ」、「ニュー・シネマ・パラダイス（愛のテーマ）」、「ふるさと」、



「上田高校校歌」（皆で合唱）、「真田丸のメインテーマ」まで軽妙なトークも交えて一気に続けました。熱烈アンコールに応えての曲は何と、「男はつらいよ」のテーマソングでした。

小林さんの今後の活躍を期待しています。

演奏する小林公哉さん（115期）

演奏会の後は、会場を隣の部屋に移して新年の懇親会がスタートしました。部屋は2つの円卓に年配期の人たちが座り、あとのテーブルは立食という形式でセットされていました。

65期の我々は年配席に案内されたのには、ちょっとびっくりでした。

懇親会の参加者も近年になく多く、大変な熱気となりました。

乾杯の発声をされた元会長の石井光春さん（54期）、宴の半ばでスピーチされた参加者中最年長の馬場正彦さん（53期）など大先輩のお元気な姿に接することも出来ました。最後に能登半島地震の義援金カンパの箱が回され、関東同窓会として被害地への応援の気持ちを表して閉宴となりました。



会場の風景、写真は関東同窓会副幹事長の小山勇さん（92期）提供

（2024年1月22日記）

以上